

東京都立南多摩中等教育学校 令和2年度学校経営報告
【今年度の取組と自己評価、達成度、課題と対策】

校長 永森比人美

項目	目標	取組と自己評価	達成度	課題と対策
学習指導	外部委託の生徒による授業評価を行い、評価データに基づいた研修会を開催し、評価項目「授業を受けて学力や自分の進歩を実感できる」の達成率を80%以上にする。	各教科で授業改善を進めたところ、評価項目「授業を受けて学力や自分の進歩を実感できる」の達成率は 79.0% であった。	B	経年変化の分析を行い、評価結果を踏まえた授業改善を一層進める。
	探究学習の深化やカリキュラム開発に向けて、専門家を招聘した校内授業研究やチームティーチングでの試行実施を通して、授業力の更なる向上を図る。	有識者からの助言を得ながら探究学習の深化について研究した。また、文理融合教科について授業を行うとともに、修正を図った。	A	大学との連携の強化を図り、多くの教員を取り込んでいくことが求められる。新教科の授業を通して生徒の資質能力の変容を分析していく。
	理数リーディング校として、グローバル企業、大学及び研究機関との連携の下、フィールドワーク活動による探究活動及び論文作成を通して、理数に対する興味・関心を高めるとともに生徒の多面的・多角的思考力を養う。	高尾山ビジターセンターや檜原村フジの森などの取組や大学研究室との連携を図り、探究活動の充実を図った。各種コンテストにも多数参加した。また教育支援団体によるゼミ支援を行った。	B	各種コンテスト等へ希望する生徒に対して今後さらに支援していく。
	知的探究イノベーター推進校として、大学、企業、各種研究機関との連携をさらに深め、文・理を越えた価値創造力を鍛える教育を推進する。	東京都立大学などの大学や、大林組などの企業等とオンラインを活用して連携を図り、探究学習を深化させた。また、CLILの実践や新教科「MIE」や「地球探究」の開発を行った。	B	大学や企業等との連携方法についてさらに模索するとともに、新教科の内容について精選し、探究学習の深化に向けてさらに検討していく。
	英語教育推進校として、オンライン英会話等の効果的な指導を生かし4技能（聞く、話す、読む、書く）のバランスのとれた英語教育を推進する。外部検定試験等のスコアを伸ばしたり、資格取得を促したりして、各自の英語運用能力を把握させる。	4技能をバランスよく習得できるように、オンライン英会話、GTEC全員受検など、英語科と進路部が連携して取り組んだ。また、ライティングの指導及び評価方法について研究を進めた。	A	第二期英語教育推進校として、4技能をバランスよく育成させるための取組を一層充実させる。特に「書く・話す」の表現力の育成を図る。

学習指導	東京都イングリッシュ・エンパワーメント・プロジェクトにより派遣される JET 2 名を放課後の Reading and Discussion 講座及び Global Scholars の取組等に関わらせ、生徒の英語を通して様々なテーマに基づく議論ができる能力や他国の同世代の生徒との交流を通して異文化理解に係る能力等を育成する。	JET 2 名が中心となり、放課後の Reading and Discussion 講座及び Global Scholars の取組等を年間通して実施したことで、様々なテーマに基づく議論ができる能力や他国の同世代の生徒との交流を通して異文化理解を喚起した。	B	日常的に英語を使う機会が増えてきており、実践的な英語力を身に付けてきている。今後も検定試験や T G G のプログラム等も活用しながら実際に英語を使う機会を増やして一層の効果を図っていく。
	東京体験スクールで留学してくる生徒と共に本校生徒を高校生国際会議に参加させ、国際感覚を身に付けさせるとともに、多角的、多面的な視野を育む。	コロナのため、東京体験スクール事業は実施できなかった。オンラインを活用した海外の同世代との交流を 3 回実施した。	B	さらに、オンラインでの交流を深め、海外の生徒と異文化交流を進める。
	あらゆる学習活動の機会において主権者教育に取り組み、平和で民主的な国家・社会の形成者として求められる力を培う。	3 年生の社会（公民）、6 年生の pensée の授業を中心に主権者教育を行い、社会や政治についての関心を高めた。	A	各学年の指導計画に主権者教育の視点を明記する。生徒の関心をより高める工夫を行う。
	「道徳」の授業を通して、道徳的価値の自覚を深めさせ社会の様々な場面や状況に応じて適切に選択・行動する能力を育成する。また、人間関係の構築に必要なコミュニケーション能力を向上させるとともに、人間としての在り方生き方に関する自覚を深めさせ、道徳的実践力を育成する。道徳授業地区公開講座の保護者や地域の参加者数を増やし、授業改善に結び付ける。	【前期生】 11 月 14 日（土）道徳授業地区公開講座を校内のみで開催するとともに、教員間で協議を通して理解を深めた。また自主自立、思いやり、生命尊重、規範意識など適時適切な主題を設定し道徳的価値の自覚を深めさせた。	B	特別な教科「道徳」の実施に向けて、指導の方法や具体的な評価方法などを更に検討して、よりよい授業を実践する。
	「人間と社会」の授業において、社会の現実に照らした体験活動や演習を通じて道徳性を養い判断基準を高めることで、より良い生き方を主体的に選択し、行動する力を育成する。	【後期生】 グループワークや調べ学習、様々な有識者による講座を通して、社会への理解や視野、自分がその一員を担うという意識が生徒の間に芽生えた。	B	自己実現に向けた協議を通して社会性や様々な価値観を学ぶとともに、より良い生き方を主体的に選択し行動する力を身に付けさせる。
生活指導	いじめ防止 ・いじめのアンケートを活用し、生徒指導部及び各学年によるケーススタディを年 3 回以上実施し、いじめの早期発見・早期解決に当たる。 ・PTA 役員会や生徒会との連携によるいじめの防止策を検討する。 ・生徒が作成した SNS 東京ルールの学校版を基にして、SNS 等への書き込みによるトラブルの防止や携帯電話等を適切に利用することができる資質・能力を養う。	・6、11、2 月に実施した。本年度も生徒部と学年が連携して早期発見と情報共有および経過観察を丁寧に行った。いじめに関する重大事故は未然に防止することができた。 ・“SNS 利用について考える会”を 8 期生が 9 期生に引き継ぎ活動を継続した。8 期生は後期課程に進級し BYOD のもとでより積極的な活用法を検討した。前期課程の 9 期生	A	SNS に関しては、生徒に考えさせる指導を継続しながら、保護者への協力を要請し、外部講師を招いての講演会を開催して多面的な指導を行う。 有志生徒が主体となり SNS ニュースによる有効活用のための情報発信を定期的に行う。

生活指導		は、情報の講師の指導を受けながら後期課程での活用を見据えて、アンケートによる現状分析を行った。さらに 2 月に校内での情報機器利用試行期間を設けて、課題の把握と後期での活用に関する指針を検討した。		
	学級活動、朝礼、学年集会等における講話を通して、社会人として必要とされる基本的な生活習慣（ルールやマナーを遵守する態度）を身に付けさせる。	・身だしなみ指導を定期的に行った。後期課程の制服採寸を学校で行って着用基準を周知し、進級前から服装指導を行っている。	B	登下校マナーアップについては、放送による呼びかけを実施している。4 月は新入生の登下校マナー定着の取り組みに注力する。後期生の着崩しが懸念されるので、生活委員会の主体的な取組に期待する。
	八王子警察署との連携の下、「命の講演会」や「犯罪被害者の講演会」を開催し、生徒に「命の大切さ」を深く考えさせる機会を与え、心の教育を推進する。	命の講演会は、講演者も含めた感染症防止の観点から中止とした。	B	動画配信など感染症対策を講じて命の講演会を開催する。全国作文コンクールにも継続して参加する。
	産婦人科医及び精神科医を活用して、性に関する教育やメンタル面での支援を行う。	コロナ禍で、産婦人科医による人権教育(性教育)は開催できなかったが、大学教員によるストレス対処力の向上に関する動画での講演を 3 年生に対して行った。性に関しては、外部講師を招いて LGBT の理解に関する講演を行い、多様な価値観の理解と他人への思いやりの心について教育を行った。	B	次年度は、産婦人科医及び精神科医を活用した講演会を開催し、更なる充実を図る。
進路指導	チューターを活用し、生徒の自主学習を教員と共にサポートする。	平日放課後、原則 2 名以上のチューターを配置して、自主学習支援を行った。後期生の受験相談および 3 年接続テスト後の補習でチューターが活躍する場面があった。	B	1 月中旬以降自主学習支援場所の固定ができないことが課題である。年間を通じて常駐できる場所が必要である。
	自習室を整備し、生徒同士の学び合いの機運を醸成する。	各 HR 教室、視聴覚室、未来門、廊下自習スペースを自習場所として活用し、生徒の利用度も高い。	A	視聴覚室は校内行事で使用できないことも多いので、専用のスペースが必要。未来門も利用希望人数に比し手狭である。

進路指導	外部機関を活用した進学指導コンサルティングを通して得たデータを基にして、生徒や保護者の進路面接や進路指導に生かす。	進路に関する情報を適宜、教職員、生徒に提供した。進路通信を年 10 回発行。進路ガイダンス・進路学年集会は学期に 2 回以上実施した。保護者会では年 2 回、進路部の報告をした。	A	1 期生の卒業後の状況調査を開始した。また 1 期生大学院生による講演会を実施した。各模試の情報提供機会を増やす。
	大学入学共通テストや難関大学の問題分析、予備校研修の分析会等の参加を通して、教員の受験指導力を向上させる。	大学入試センター試験問題分析集、難関大学入試問題分析集を作成発行した。予備校の研修会に主要教科の教員が参加した。	A	2021 年度以降の大学入試に対応した各教科の指導体制を整備していくことが課題である。
	国内外の大学と連携し、教員の各教科の専門性を高める。	東京都立大学や東京外国語大学等と連携して研究会への参加や指導内容について指導助言をいただいた。	A	大学の授業や研究会に参加する機会を確保していく。
	大学の教員と本校教員の懇談会を通して、高大接続の在り方を研究する。	東京都立大学の高大接続研究会に参加し、高大接続に関する情報交換をすることができた。また東京都立大学と共催で探究学習合同発表会を実施した。	A	継続的に情報交換する教員の範囲を拡大していく。
	企業との連携を図り研究所への訪問や企業研究者から生徒への課題の投げかけを通して、課題解決型の生徒の力を高める。	ヤクルト中央研究所や(株)大林組と連携してキャリア教育を行った。日本政策金融公庫の講演を実施し、生徒にビジネスと社会問題の解決についての視野を広げた。	A	企業との PBL 型学習をさらに進める。ビジネスプランの作成やビジネスプランコンテストへの参加を図る。
	同窓会あかね会の協力の下、卒業生の進路追跡の方策を検討する。	1 期生の卒業後の状況調査を開始した。南多摩ホームカミングデーという名称で 1 期生の学部生・大学院生による講演会を実施した。	A	1 期生の進学・就職状況を把握していく。
特別活動等	異年齢集団の交流を取り入れた行事（体育祭、合唱祭、文化祭）を通して、生徒の思いやりの心、人間関係調整力、克己心を培う。	文化祭・体育祭・合唱祭は中止とした。新入生歓迎会及び生徒総会においては、後期生が中心となり、オンラインで開催した。全体を通して、後期生が範を示し具体的な目標となつて、前期生に刺激を与え成長を促した。	B	体育祭は、2 日間に分けて 2 学年ずつの分散開催で実施する。文化祭は、劇を動画で記録し公開したり、オブジェを製作したりするなど、三密を回避する企画を工夫して開催する。いずれも校内公開のみとする。

特別活動等	オリンピック・パラリンピック教育の一環として本校を会場とした「夢街道駅伝」に生徒を積極的に関わらせると共に、1年生の体育の授業で東京五輪音頭2020を取り入れ、生徒の中にレガシーとして残る教育を展開する。	「夢街道駅伝」は、今年度は会場としての使用を断った。東京五輪音頭2020からは、8時間の指導案を組み体育の授業で指導している。	B	東京オリンピック・パラリンピックが実施延期となるが、生徒のモチベーションを維持し、レガシーとして残る教育を継続する。
	指導体制の工夫改善及び各部活動で前期課程から後期課程への円滑な指導の接続を図り部活動を活性化し、生徒の体力や気力を向上させる。また、3年生の夏休み明けに実施する接続テストを用いて、生徒に高校生になる心構えをもたせる。	部長会を前期後期合同で行い、年間を通して交流を図った。後期への接続に関して3年の2学期に体験入部を行い、入部届を提出できるようにしている。また、3学期から後期課程の活動時間で活動できるようにして後期への円滑な接続を図った。	B	学習との両立および事故防止と感染症防止対策を徹底しながら安全な活動が維持できるように、活動状況の記録を継続する。また、後期への加入率を高めるために前期と後期の交流を図り円滑な接続を図る。
	防災活動支援隊の活動の充実を図るため、専門機関（工学院大学等）と連携した防災教育の研究をさらに深める。	工学院大学と連携して、地域の防災マップの改訂作業を行った。研究室の教授、学生とともに現地調査を行い、以前作成した時点からの変更箇所を確認しながら、地域の防災と減災の要点を学んだ。また、地域の町会へ防災新聞を定期的に発行して防災情報を共有し、地域の防災力向上に貢献した。これまでの防災活動と研究成果を防災甲子園に提出し、チャレンジ賞を受賞した。7名の生徒が防災士養成講座に参加し、防災士の資格を取得した。	A	作成した防災マップについて、地域との意見交換会を開催し、地域の防災・減災に活用できるように改善を行い地域住民に配布する。4学年防災訓練で、地域住民と共に避難所設営訓練を行い、地域交流を活発化する。
	朝読書の推進や図書館の効果的な活用により、生徒の読書の量や質を向上させる。	前期生の朝読書、100冊プロジェクト、図書館司書の指導による前期生ビブリオバトルへの参加に加えて、各教科及び総合的な学習における図書館利用を進めた。 前期生の図書貸出平均冊数 21.8冊/人 1年生の図書貸出平均冊数 33.7冊/人	B	読書の推進に向けて図書館活用を一層進める。
	年間保健指導計画に基づき、担任、養護教諭、栄養士、保護者と連携し食育を推進する。	年2回の給食運営委員会の実施、保護者対象給食試食会はコロナにより実施できなかったが、給食だよりを活用して食育を推進した。	B	牛乳パックのリサイクルについて学年と調整を図っていく。

特別活動等	保健便り、給食便りを発行し、保護者等と連携してアレルギー対応に十分注意を払い、生徒の健康づくりを進める。	保健便り、給食便りを定期的に発行し、家庭との連携、健康づくりを推進した。	A	アレルギー対応に十分注意をして、継続する。
	オーストラリアの研修旅行を生かし、オリンピック・パラリンピック教育（世界ともだちプロジェクト）の対象国であるオーストラリアとの関わりを深め、言語、文化、歴史などを学ぶことを通して、単に知識を広げるだけではなく、世界の多様性を知り、様々な価値観を尊重することの重要性を理解させる。	ベトナム（ハノイ）やスペイン（バルセロナ）の学校とオンラインで交流を図り、とても貴重な経験となった。難しい状況であるが、今後も継続することが望ましい。	A	海外での交流方法について、オンライン交流をはじめ、在日の外国人との交流なども検討する。
組織体制	各分掌・学年の年間業務一覧を作成し、全教員が分掌や学年の壁を越えて業務内容等に関する情報を共有できるようにし、企画調整会議の質を向上させる。	分掌や学年の業務一覧による業務把握を行ったが、分掌・学年を超えた情報共有までは至らなかった。	C	分掌・学年間の情報共有を一層進める。
	学校の目指す方向性、校務の進捗状況を職員室に掲示して、教職員が絶えず校務全般に対する状況を把握できる環境を整える。	企画調整会議や担当分掌・委員会において進捗状況を把握し、校務全般の状況把握を全教員が行った。	B	企画調整会議での内容を全教員が把握するように周知していく。
	校務内規等の整備を通して、全教員が同一の視点で生徒の教育に当たれるようにする。	校務内規の課題に対して担当分掌が検討し学校として修正した。	B	今後も課題毎に検討・修正する。
	OJT 機能を活用して組織運営を行う。	若手教員と共に課題解決に向けて取り組むことがOJTにつながっている。	B	OJT対象者を明確にしてこれまで通り進める。
	校内の言語環境を整えるため、教職員が生徒の範となる言動を心がける。	職員会議や企画調整会議や個別指導を通して、特に生徒指導における言動について注意喚起するとともに、健康観察表等の提出を促した。	B	分掌会議や学年会議、また、教員同士の触れ合いの中でも自浄作用を高めていく。
募集対策	塾や小学校への広報活動を積極的に行う。	管理職を中心に、栄光ゼミナール、Z会等の説明会に参加した。また入学生生の在籍していた小学校にパンフレットを送付した。	B	さらに近隣の市町村の小学校に広報活動を進める。
	授業公開、学校紹介及び学校説明会の内容の充実を図る。	オンラインでの学校紹介を実施するとともに、校内見学会を実施した。	A	オンライン配信を研究し、さらに組織的な取組としていく。
	ホームページに新規事項を適時・適切にアップする。	ホームページは適時・適切に更新した。	A	来年度のリニューアルを適切に更新していく。

募集対策	様々な分野の大会やコンテストに生徒を積極的に出場させる。	東大教養学部主催「高校生と大学生のための金曜特別講座」 科学オリンピック（物理、化学、生物、地学） Tokyo サイエンスフェア 東京農工大・GIYSE プログラム 全国高校生 SR サミット FOCUS 文科省主催 全国高校生フォーラム 東京都立大学・探究学習合同発表会 生徒研究成果合同発表会 (Toyama Science Symposium) 科学の甲子園ジュニアエキシビジョン大会 「化学分野 1 位 協働パートナー賞」 高校生国際シンポジウム (Glocal Academy) 環境探究フォーラム 2021 優秀賞・敢闘賞 八王子市・高校生によるまちづくり提案発表会 公立中高一貫連携事業中学生即興型英語ディベート交流大会 公立中高一貫連携事業百人一首大会 後期太鼓部 全国大会出場 南多摩フィルハーモニー 全国大会出場 グローバル問題研究会 ふれあい感謝状 21 受賞 後期薙刀部・全国選抜大会出場	A	様々な大会やコンテストへ参加していく。校長賞を設け、校内で積極的に参加について奨励するとともに、各コンテスト等でさらに上位入賞できる指導の充実を図る。
経営企画室との連携	校長、副校長、室長の毎朝の打合せを通し、経営参画型の経営企画室の運営を行う。	日常的に学校運営についての意見交換等を行い、学校運営に対する経営企画室の参画を推進した。	B	効率的な意見交換等により学校運営を進める。
	適正な自律経営予算の策定と執行に務め、学校全体のコスト意識を高める。	予算調整会議をはじめ企画調整会議等において予算上の課題を共有し、コスト意識を高めた。	A	自律経営予算の大幅な減額による学校経営を実施する。
	施設・設備の活用状況や修繕箇所の把握を行う。	修繕個所の把握はできたが、予算上の課題があり修繕が進まない部分もあったが、空調設備の整備を進めた。	B	継続的に増改修の要望を出していく。

働き方改革について	教職員は各自週 1 回の割合で、定時退勤日を設け、年度当初の自己申告書の自由記述欄に記載し、ライフ・ワーク・バランスの推進に努める。	部活動指導や保護者からの電話対応など、勤務時間を超えて行う業務が多いが、ある程度実施することができた。	B	引き続き、ライフ・ワーク・バランスの推進に努めていく。
	効率的な職務遂行を目指し、フレックス勤務を想定した時間割作成を研究する。	年間通して、時差勤務を奨励することで、教員のライフワークに応じた勤務形態を実践することができた。	A	土曜勤務や、展開授業の多い先生の時間割の組み方について、研究を進めていく。

【備考】表中の「達成度」は以下の基準によるものとする。

- A 目標に対する取組が十分であった。 C 目標に対する取組が一部不十分であった。
 B 目標に対する取組がほぼ十分であった。 D 目標に対する取組が不十分であった。

【重点目標・目標数値】

	令和 2 年度目標数値		令和 2 年度結果	平成 31 年度結果	平成 30 年度結果	平成 29 年度結果	
学力向上	生徒による授業評価において、学習効果の項目 「授業を受けて学力や自分の進歩を実感できる。」 の到達率		80%以上	79.0%	79.0%	78.9%	78.5%
	前期課程：都調査、全国学力学習状況調査、学力推移調査結果で前年度を上回る。		1 ポイント	1 年：＋2.7 2 年：－5.4 3 年：＋4.8	1 年：＋3.3 2 年：＋3.6 3 年：－7.6	1 年：＋1.9 2 年：－2.5 3 年：－0.7	1 年：－0.5 2 年：－3.2 3 年：＋3.0
	後期課程：同一学年の外部模擬試験結果で年度末の S 段階・A 段階の割合が前年度を上回る。		1 ポイント	4 年：－11.6 5 年：＋0.3 6 年：－1.7	4 年：－0.2 5 年：－5.7 6 年：＋4.0	4 年：－5.2 5 年：＋2.2 6 年：－1.0	4 年：＋18.8 5 年：－8.2 6 年：＋1.2
	5 年生	国数英の 3 教科で学習到達ゾーン A 段階を超える生徒	70%以上	70.1%	75.2%	81%	95.4%
		C 段階の生徒	ゼロ	2.7%	0.1%	ゼロ	4.6%
	2 年 生：GTEC for Students Core	平均点	505 点	487.8 点	515.6	375.5	396 点
		570 点以上の受験者	20%以上	19.2%	23.7%	39.3%	63%
	3 年 生：GTEC for Students Basic	平均点	590 点	598.9 点	586.7	506.6	524.6 点
		615 点以上の受験者	20%以上	42.7%	38.2%	51.8%	67.1%
	4 年生：GTEC for Students Advanced	平均点	830 点	868.8 点	903.8	548.6	536.6 点
		920 点以上の受験者	20%以上	28%	41.0%	15.6%	13.9%
	5 年生：GTEC for Students Advanced	平均点	870 点	963.6 点	968.4	570.8	556.1 点
		1010 点以上の受験者	20%以上	38%	27.5%	7.4%	7%
留学に挑戦する生徒		年間 1～2 名	0 名	2 名	1 名	3 名	

進路指導	教員の進路分析会を実施する		年間 2 回以上	年 2 回	年 2 回	年間 2 回	年 3 回
	入試問題分析集の作成	センター試験入試問題分析集を生徒配布	5 月に	5 月	5 月	4 月	5 月
		難関国公立大学入試分析集を生徒に配布	7 月に	7 月	7 月	7 月	7 月
	3 年生：研究開発型大学や研究室訪問を実施		1・2 学期に	2 学期	2 学期	1・2 学期	6 月実施
	4 年生：2 学期までに興味ある学問及び希望学部 の方向性を決定している生徒の割合		8 割以上	97.3	100%	94.1%	92.7%
	5 年生	9 月までに希望学部・学科を具体化している生徒の割合	9 割以上	97.8%	97.9%	97.8%	94%
		受験体制に入る時期	10 月	10 月	10 月	10 月	9 月後半
		全ての生徒が希望大学を具体化させる時期	3 学期	3 学期	3 学期	3 学期	3 学期
	6 年生	研究開発型大学への進学を目指す生徒の割合	8 割以上	95.9%	94.2%	74.0%	97.4%
		大学入学共通テスト 5 教科 7 科目を受験する生徒の割合	6 割以上	51.1%	61.0%	42.7%	49.3%
		大学入学共通テスト・難関国公立大学合格可能点数（8 割）水準以上の生徒の割合	2 割以上	15.1%	18.4%	14.5%	14.9%
		難関国公立大学合格者数	13 名以上	現役 6 名	現役 13 名	7 名	10 名
生徒の	S C 連絡会の開催	前期課程	週 1 回開催	週 1 回開催	週 1 回開催	週 1 回開催	週 1 回開催
		後期課程	月 1 回開催	月 1 回開催	月 2 回開催	月 2 回開催	月 2 回開催
	いじめのアンケートの実施		年間 3 回以上	3 回実施	3 回実施	3 回実施	3 回実施

心のケア	学校医等と連携した講演会を実施（今年度より、産婦人科医及び精神科医等と連携した講演会を実施）		それぞれ 年間 2 回程度	コロナにより 0 回	それぞれ 年間 2 回	3 回実施	3 回実施
	特別な支援の必要な生徒の個別指導に資する研修会を実施		年間 3 回以上	5 回	3 回実施	2 回実施	1 回
募集対策	適性検査の出願倍率		5 倍以上	5.06 倍	5.39 倍	5.68 倍	5.26 倍
	ホームページの更新回数		300 回以上	558 回	550 回	450 回	500 回
	授業公開、 学校紹介・学校説明会等	実施回数	30 回	オンラインで 実施	30 回	40 回	40 回
		参加者数	3500 名以上		4865 人	5,238 人	4,765 人
その他	服務事故等重大事故		ゼロ	ゼロ	ゼロ	ゼロ	ゼロ